

## ☆聖書で祈る☆

エフェソ 4：11～16 「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」

11:そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。12:こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、13:ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。14:こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、15:むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。16:キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分にに応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

ローマ 12：5～8 「各自は互いに部分」 (本文省略)

1ペトロ 4：10～11 「賜物を生かして互いに仕えなさい」 (本文省略)

## ▽参考資料▽

### 使徒職教令 16 (個人として行なう使徒職の諸形態)

個人として行なう使徒職は、真のキリスト教的な生活からあふれるものであり(ヨハネ 4:14 参照)、組織活動をも含めたすべての信徒使徒職の根源であり条件であって、それに代るものは他にない。

個人として行なう使徒職は、いつでもどこでも有益でありしかも特定の環境においてはこれだけが適切で可能なものである。すべての信徒はその境遇のいかんを問わず、たとえ組織活動に参加する機会や可能性をもたない者でも、このような使徒職に召され、義務づけられている。

### 使徒職教令 17 (困難な環境における個人的使徒職)

カトリック信者が少数で分散している地方では、個人による使徒職に特別な分野が開かれている。そのような地方において信徒は、前述の理由、あるいは職業上の活動から起こる特別な理由によって、個人的な使徒職しか行えないが、厳密な意味の制度や組織を持たない小さなグループを作って、話し合いのために集まることができる。

### 『信徒の召命と使命』第28項

個人として行なう使徒職のもっている大きな豊かさは、信徒一人ひとりが宣教に励むとき、おのずと明らかになっていきます。このように各自が使徒職を果たしていくとき、福音はいつそう広範囲に広まり、信徒一人ひとりが日常生活を営んでいる多くの場所に届きます。生活と信仰が一つであるとき、福音はたえず広まっていくのです。信徒は、兄弟姉妹の生活と労働、困難と希望の独特な状態を全面的に共有しているとき、隣人、友人、同僚の心をつかみ、人間存在の意味、つまり神と人との交わりに彼らの心を開くことができます。そのようなとき、福音はとくに確実に広まるのです。

### 『教会奉仕職に関するアジア会議結論』第31・32項

31. . . .キリスト信者は皆、その召命と洗礼の力によって聖霊の賜物を受けたもの(カリスマティック)となる。しかし教会の奉仕職に、皆が同じやり方で、同じ比重で参加しているのではない。こうした教会の奉仕の使命への参加のしかたの中で、時に応じて自発的に行われるものを「奉仕」と呼ぶことにする。

32. 奉仕職という言葉は、教会のメンバーが一定の期間それを引き受け、広い範囲で実行するような奉仕であり、こうして人々にキリストの救いのみ業の現存を示す教会の責任に、公に参加するような奉仕をもっとはっきりと意味している。このような奉仕職はすべて、共同体のリーダーを通して共同体によって認められ、権威づけられるものでなければならない。